

## 早稲田大学 法学部 世界史 講評

### 〔総合分析〕

|        |   |
|--------|---|
| 出題形式   | マーク・記述併用  |
| 試験時間   | 60分   |
| 特徴・その他 | 選択問題は37題と昨年までの34題から増加。論述1題は不変。論述のテーマは昨年を引き続き現代史。正誤判定・論述ともに昨年・一昨年に比べてやや難化した。 |

### 〔大問別講評〕

| 番号 | 出題内容              | コメント  | 難易度         |
|----|-------------------|---|-------------|
|    | 中国制度史・経済政策        | <p>今年の第1問「中国の戸籍・土地制度」をほぼ踏襲。一部以外は正誤のポイントが見えやすく、時間もかからないはず。ただ、問4のイとロは悩ましい。ロの内容は間違っていないのだが、用語集レベルの説明内容と違いが大きすぎる。イは課税対象に「中男」が入っているのが間違い。問6のエは官戸に関する部分が誤り。</p>   | 標準<br>(一部難) |
|    | 東南アジア前近代史         | <p>とくに難しい箇所はない。ただ、東南アジア関係にあまり時間を割かなかった人には一部苦戦を強いられたかもしれない。問1 - aの南越は文化構想学部、設問9のアンコール=ワットは国際教養学部でも出ている。</p>  | 標準          |
|    | 西洋古代・中世の政治制度・議会制度 | <p>全体として易しいが、設問7はやや細かい。フランス革命期の展開を正確におさえていないと判断に迷うかも知れない。</p>   | 易           |
|    | 南北戦争以後の米国         | <p>設問2 - イのロックフェラーはスエズ運河には関係なし。関係あるのはロスチャイルドである。設問3は冒頭の人名Aと思想A´をダーウィンと進化論と見抜けないと、次ぎの人名Bと思想B´がアダム=スミスと自由放任主義につなげられない。下手をすると、A・A´とB・B´を逆転してしまう危険もある。無理をすればそれでも文は通じる。その点、C・C´のスペンサー(ハーバート=スペンサー)と社会進化論は選びやすい。社会進化論は国際教養学部でも出ている。</p> | やや難         |

〔大問別講評〕

| 番号 | 出題内容              | コメント  | 難易度        |
|----|-------------------|---|------------|
|    | <p>仏の北アフリカ植民地</p> | <p>指定語句を羅列して、仏の北アフリカ進出から独立までをたどるだけなら易しい。しかし、問題文の中の「独立を達成したものの、経済的・社会的・民族的問題を抱え、植民地主義の爪あとを色濃く残している」と「北アフリカにおけるフランスの植民地を例にとり」に注目しなければならない。あくまでも仏のケースは「例」であり、論の要点は「植民地主義の爪あと」とはどのようなものかという点におかれなければならない。そうすると文は独立をゴールとするわけにはいかなくなる。そして、仏はあくまで「例」に過ぎないわけだから、独立後のアフリカ諸国一般に見られる問題へと論旨をつなぐ必要もある。</p> | <p>やや難</p> |

〔総合コメント〕

全体として、正誤判定問題が難しい。とくに選択されない文章の内容に高校レベルをはるかに超えた知識が目立つ。消去法で対処可能なものもあるが、正解の一本釣りしかできないものもある。こういう問題では、自分の知らない事項をあまり疑ってもきりがない。多少なりともポイントが見えた場合は脇の文章は思い切って切り捨てた方がいい。ただ、そういう度胸は、似たような問題をこなしていないとなかなかつかない。問題演習の量が最後はものをいうことになるだろう。昨年の論述問題のテーマは「米の世界恐慌対策」であった。今にして思えば時宜をえたテーマであった。今年も、アフリカ諸国のかかえる複雑な問題の歴史的背景を問う問題。いずれにしてもふだんからの時事問題への関心の高低が文章の出来不出来に直結するテーマである。来年のテーマを予測することは難しいが、時事問題的発想が生きる内容になる可能性が高い。新聞などを通じて時事問題への知識を蓄積しておきたい。